



unesco World Heritage site Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan

# 世界へ発信！

unesco Global Geopark

## 2つのユネスコ遺産

■問合せ 社会教育課文化財係 (☎ 74-3010)



ルート 37 の世界遺産  
World Heritage Sites on Route 37

入江・高砂貝塚 北黄金貝塚

# JOMON



## JOMON講座 「縄文貝塚を考える」 開催！



講演会の様子

昨年11月25日(土)、入江・高砂貝塚にてJOMON講座「縄文貝塚を考える」が開催されました。入江・高砂貝塚と伊達市の北黄金貝塚は、国道37号線沿いにある世界遺産「ルート37の世界遺産JOMON」として、連携して普及・活用に取り組んでおり、今回の講座もその一環として開催されました。洞爺湖町の角田学芸員、伊達市の永谷学芸員、そして、長年噴火湾沿岸の縄文貝塚を研究フィールドとしてきた、大島直行先生が講演を行いました。

角田学芸員は、世界の貝塚について、縄文時代と同時期の貝塚が太平洋沿岸から東南アジアに広く分布していることを紹介しました。世界の貝塚を見ると貝だけの層が多く、入江・高砂貝塚のように、動物の骨で作った道具やお墓が見つかることはほとんどないとのこと。世界と比較することで、日本の貝塚の独自性が見えてきます。

永谷学芸員は、縄文貝塚が持つ意味に迫りました。貝塚の中で骨や貝がどのように置かれていたのか、具体例を挙げながら考察し、貝塚は縄文人の再生への願い、命に対する思いが込められた場所だったのでは、と想定しました。

そして、最後に大島先生が「世界遺産としての入江・高砂貝塚／北黄金貝塚」と題して講演を行いました。大島先生は、北黄金貝塚の形に注目し、縄文人は貝塚を「子宮」と見立てたのではないかと語ります。

さらに、縄文研究のこれからについて、現代の私たちが考える概念、例えば「家」や「家族」、「絆」といったものが、縄文時代に本当にあったのか、今改めて考えていく必要がある、と熱弁をふるいました。縄文貝塚について、そして今後の縄文研究についての考えを深める講演会となりました。



伊達市 永谷学芸員



大島直行先生